

表2 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(全体)

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につける。		(c)	○	「基礎ゼミナール」【方法】平常点 80 %、成果発表 20 %【基準】テーマの絞込み、背景・現状の調査、持続可能な将来像に関する考察において、少人数クラスへの貢献度、会議形式の授業における討議参加状況などを総合的に評価する。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「基礎数学」【方法】小テスト15%、中間テスト15%、課題10%、期末テスト60%【基準】・毎回講義開始時に、小テストを実施(前回の講義の復習を中心)・課題は教科書の問題を解く。中間テスト、期末テストの直前に課題提出・行列の演算を理解し、その基礎的な計算および応用ができるかどうかを評価の主な基準とする。また、授業に対する関心と意欲も評価基準とする。・再試験を行う場合は、1回とする。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につける。		(c)	◎	「微分積分学Ⅰ」担当者が複数で別開講のため、シラバス参照のこと。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につける。		(c)	◎	「微分積分学Ⅱ」担当者が複数で別開講のため、シラバス参照のこと。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「線形代数学」【方法】平常点 5 %、課題 5 %、期末テスト 90 %【基準】基本的な概念を理解しているか、計算に習熟できているか、を重視する。本質的でない部分の計算ミスはさほど重視せず、程度に応じ、3割以下の減点とする。本質的な部分の理解ができていない場合は、程度に応じ、3割以下の得点とする。毎回の課題レポートは2週間以内に提出する。その提出状況を評価に反映する。期末試験の成績が合格点に少々不足した場合、課題レポートの提出遅れ回数がある回数(若干数)以下である受講者に限り、合格点とする可能性がある。期末にまとめでの提出は、非常に雑になり身にならないので考慮しない。上記「評価方法」の「割合」で、平常点・課題が5%というのは、普段、課題を遅れずにしっかりこなしているか?を評価するという意味。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「微分方程式」【方法】小テスト 20-35 %、課題 5-20 %、期末テスト 60 % 【基準】基本的問題(教科書の例題、レポートの課題、小テストの問題)を完全に理解して解けるようになることが大事である。レポート、小テストおよび期末テストの評点を総合して評価する。再試験は原則として行わないが、もし行う場合には評価点で40点以下の者は受ける資格なしとし、自動的に再履修となる。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	○	「ベクトル解析」【方法】毎週講義開始時に小テストを実施する。中間(30%)・期末試験(40%)合計70%、小テスト30%、総合60%以上を合格とする。【基準】再試験は原則として実施しないが、もし実施する場合には、その回数は1回とし、総合点で40点未満の者は受験する資格が無く、自動的に再履修となる。出席が2/3に満たない学生は中間・期末試験の受験資格無し。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	○	「確率統計学」【方法】期末テスト 80 %、平常点 10 %、レポート10 %【基準】・基本統計量・度数グラフ・ヒストグラムについて説明や計算ができる。・相関係数・回帰分析について説明ができる。・確率分布・正規分布について説明ができる。分布表を用いて確率を求めることができる。・標本抽出法について説明ができる。・統計的推定・仮説検定について説明でき、基本的な問題を解くことができる。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	○	「フーリエ解析」【方法】平常点 0~5 %、iカード 0 %、小テスト0~10 %、課題 0~10 %、期末テスト ~100 %【基準】レポートと期末テストの合計点で、60点以上を合格とする。再試験は原則として行わないが、もし行う場合には、期末テストで30点以下の者は受ける資格がなく、自動的に再履修となる。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「物理学Ⅰ」【方法】試験 40 %、レポート課題 30 %、平常点 30 %【基準】期末試験(40%)、レポート課題(30%)と平常点(30%)により、到達目標の達成度について評価を行う。平常点は授業中に行う小テストの結果やレスポンスカード等の内容で評価する(レスポンスカードの内容が適切かどうか等)。レポート課題は最初の授業で問題を配布し、授業の際に提出日と範囲をその都度指示する(3回の提出を予定)。期末試験では教科書等の問題やレポート課題の類似問題を5割程度、応用問題を5割程度出題する。最終的な評価点が90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、60点未満を不可とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「物理学Ⅱ」【方法】試験 40 %、レポート課題 30 %、平常点 30%【基準】期末試験(40%)、レポート課題(30%)と平常点(30%)により、到達目標の達成度について評価を行う。平常点は授業中に行う小テストの結果やレスポンスカード等の内容で評価する(レスポンスカードの内容が適切かどうか等)。レポート課題は最初の授業で問題を配布し、授業の際に提出日と範囲をその都度指示する(3回の提出を予定)。期末試験では教科書等の問題やレポート課題の類似問題を5割程度、応用問題を5割程度出題する。最終的な評価点が90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、60点未満を不可とする。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「物理学実験」【方法】出席点 70 %、実験ノート 20 %、レポート10 %【基準】出席状況、実験ノート、レポートを基に成績評価を行う。原則として、実験を一回でも欠席した場合およびレポート提出がない場合は単位を認定しない。尚、病気、忌引き等、止むを得ない理由により実験を欠席する場合は予め担当教員に申し出をし、後日補充実験を行う。実験ノートについては、予習・整理状況を重要視する。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「化学Ⅰ」【方法】小テスト 50 %、期末テスト 50 %【基準】「小テスト」: 每章ごとに理解度を10点満点で採点し、合計点を50点満点に換算する。「期末テスト」: 授業で扱った内容から出題し、50点満点で評価する。上記2項目の総合評価により、100点満点で60点以上を合格とする。各評価の基準は、以下のとおり。秀: 90点以上優: 80点以上89点以下良: 70点以上79点以下可: 60点以上69点以下・なお、小テストおよび期末テストの難易度は、おおむね教科書の章末問題のレベルに相当する。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「化学Ⅱ」【方法】小テスト 40 %、レポート 10 %、期末テスト 50%【基準】小テスト(40点)、レポート(10点)、期末試験(50点)による総合評価とし、100点満点で60点以上を合格とする。各評価の基準は、以下のとおり。秀: 90点以上優: 80点以上89点以下良: 70点以上79点以下可: 60点以上69点以下・なお、小テストおよび期末テストの難易度は、おおむね教科書の章末問題のレベルに相当する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「化学実験」【方法】平常点(出席) 30 %、実験態度(実験前課題) 20 %、課題(実験レポート) 30 %、期末テスト 20 %【基準】実験は自ら行うことが絶対条件なので、やむを得ない理由がない限り欠席した場合は不合格とする。欠席せざるを得ない場合は、予めわかっている場合は事前に、突発的事由の場合はできるだけ早く担当教員に知らせ許可を得たうえ、補講実験の日程をうちあわせること。遅刻した場合は、一回ごとに2点減点する。実験態度は、各テーマ毎の「実験前の課題」の内容を10点満点(実験内容を把握するのに十分予習できている＝10、まずまずできている＝9～8、少し不足＝7～6、予習不足＝5以下)で評価し、合計点を10点満点に換算したものと、全体をとおしての実験中の態度を10点で評価したもの(著しく態度が良くない場合に減点する)の合計。実験レポートは、各テーマ毎に10点満点(実験結果が明示され、その結果を十分説明あるいは解釈する考察がなされている＝10、幾分考察に難がある＝9～8、結果の表現に難があり考察もやや不足＝7～6、レポートとして評価できない＝5以下)で評価し、合計点を30点満点に換算する。レポート提出が遅れた場合も平常点から、一回毎に5点減点する。テストは、各テーマの内容に関する問題を各1問ずつ出題し、20点満点で採点する。以上4項目の合計点により、岩手大学の評価基準にしたがって、秀(2007年入学生から)・優・良・可・不可で評価する。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	○	「地学」【方法】小テスト 10-30 %、課題 10-30 %、期末テスト60 %【基準】レポート(課題)と小テストをあわせて平常点(40%)とし、期末テスト(60%)と総合して評価する。再試験は原則として行わないが、もし行う場合には評価点で40点以下の者は受ける資格なしとする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「社会基盤・環境プログラミング演習」【方法】小テスト 40 %、期末テスト 60 %【基準】出欠状況の評価基準(必須) ・1回でも無断欠席した場合は、「不可」の評定とする。・遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。なお、遅刻限度は14:50までとする。小テストの評価基準(40点満点) ・毎回、演習時間の始めに小テストを実施する。出題範囲は前回演習した文法までの内容とする。・入力に対して正しい出力を得られるプログラムを作成できるかを採点の基準とする。期末試験の評定基準(60点満点) ・出題に対して解答を得るためのプログラムを実際に作成し、出力された結果に対して採点を行う。・出題内容は、文法の習得を問うものから応用力を試すものまで、難易度別に数問を出題する予定である。小テストと期末試験の点数を合計し、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と評価する。再試験は原則として行わないが、もし行う場合には「小テスト+期末テスト」で40点以下の者は受ける資格無しとする(自動的に再履修となる)。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	○	「数値計算法」【方法】中間試験 50 %、期末試験 50 %【基準】評価は中間試験及び期末試験の得点で行う。平均点60－69点可、70－79点良、80－89点優、90点以上秀。なお、59点以下については再試験を実施する場合もあるが、再試験における成績評価は「可」とする。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	○	「地質工学」【方法】小テスト 10-30 %、課題 10-30 %、期末テスト 60 %【基準】レポート(課題)と小テストをあわせて平常点(40%)とし、期末テスト(60%)と総合して評価する。再試験は原則として行わないが、もし行う場合には評価点で40点以下の者は受ける資格なしとする。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	○	「理工学入門数学Ⅰ」「理工学入門数学Ⅱ」【方法】出席20%、レポート30%、期末テスト50%【基準】出席20点、レポート30点、期末テスト50点で60点以上合格。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	○	「理工学入門物理Ⅰ」「理工学入門物理Ⅱ」【方法】平常点40%、小テスト60%【基準】授業への取り組み状況、出席状況並びに单元ごとに行う小テストをあわせて100点満点に換算し、60点以上を合格の目安とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	○	「理工学入門化学」【方法】平常点 15 %、小テスト 35 %、期末テスト 50 % 【基準】下記三つの評価方法の合計点が、90点以上の場合は“秀”、80点以上の場合は“優”、70点以上の場合は“良”、60点以上の場合は“可”、59点以下の場合は“不可”とする。「平常取組点」授業に対する積極的な取り組みを15点分に評価する。「中間テスト」中間時期にテストを実施し、35点分に評価する。「評価テスト」最終日にテストを実施し、50点分に評価する。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「技法知科目」に分類されている、「情報科目」の単位取得によって評価する。
(1)大項目1 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。		(c)	◎	「学問知科目」に分類されている、「自然＆科学技術科目」および「環境科目」の単位取得によって評価する。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「基礎ゼミナール」【方法】平常点 80 %、成果発表 20 %【基準】テーマの絞込み、背景・現状の調査、持続可能な将来像に関する考察において、少人数クラスへの貢献度、会議形式の授業における討議参加状況などを総合的に評価する。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	○	「入門地域創生論」【方法】日常点 40 %、レポート 60 %【基準】日常点は、出席状況や授業態度を30点満点で評価、3回の特別講演に関するレポートを各20点で60点満点とし、合計100点満点で総合評価とする。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「社会基盤・環境工学実験」【方法】出席状況や実験態度、レポートの出来具合を、各実験ごとに担当教員が100点満点で採点【基準】全ての実験の平均点で評定する。評定基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「測量学実習Ⅰ」【方法】出席・遅刻状況 20 %、実習態度および各種提出物 80 % 【基準】◇「出欠・遅刻状況」の評価基準・1回でも「無断欠席」した場合は、『不可』となる。・遅刻かどうかの限度は出欠点呼中までとし、2回以上遅刻した場合は、『不可』となる。◇「実習態度および各種提出物」の評価基準・提出物は以下のとおりであり、いずれか1つでも提出期限までに未提出の場合は、『不可』となる。1.トラバース図面と計算書 2.基線測量計算書 3.曲線設置計算書・提出物は、図面担当教員に『合格』と判断された期日と、図面の正確さや丁寧さを判定基準として評価を行う。・実習態度は、グループ連帯力や行動力などで評価する。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「測量学実習Ⅱ」【方法】出席・遅刻状況 20 %、実習態度および各種提出物 80 % 【基準】◇「出欠状況」の評価基準◇「出欠状況」の評価基準・1回でも「無断欠席」した場合は、『不可』となる。・遅刻かどうかの限度は出欠点呼中までとし、2回以上遅刻した場合は、『不可』となる。◇「実習態度および各種提出物」の評価基準・提出物は以下のとおりであり、いずれか1つでも提出期限までに未提出の場合は、『不可』となる。1.自然観察園図面 2.曲線設置図面 3.道路の紙上設計図面一式(路線選定理由書、道路構造書、道路平面図、道路横断面図、道路縦断面図、土量計算書) 4.CADで作製したトラバース図面・各種提出物は、各図面担当教員に『合格』と判断された期日と、図面の正確さや丁寧さを判定基準として評価を行う。・実習態度は、行動力、設計過程における取り組み状況などで評価する。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「構造力学Ⅰ」【方法】平常点 10 %、小テスト 30 %、課題10%、期末テスト 50 %【基準】毎週の授業中の小テスト(課題も含む)の平均点(40点満点)、期末テスト(50点満点)及び平常点(10点満点)の結果で総合評価し、60点以上を合格とする。無断欠席が無く40点以上60点以下のものには再試験(100点満点)を実施し、60点以上を合格とするが、評価は可とする。(1)力のつり合い式を理解していること。(2)桁の反力が計算できること。(3)桁の曲げモーメント図とせん断力図が描けること。(4)桁の応力(曲げ応力度)が計算できること。(5)桁の変位(たわみ)を計算できること。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「構造力学Ⅱ」【方法】平常点 10 %、小テスト 30 %、課題 30 %、期末テスト 30 %【基準】学期末試験(30点)、小テストの総点(30点満点に換算)、課題の総点(30点満点に換算)及び平常点(満点10点)を総合して評価し、60点以上を合格とする。・無断欠席と課題の未提出が無く、総合評価が50点以上60点未満のものには1回に限り再試験(100点満点)を実施し、70点以上を合格とするが、評価は可(総合評価60点)とする。・小テストでは、教科書、ノート、電卓の使用は認める。・学期末試験、再試験では、教科書、ノートの持ち込みは不可とするが、電卓の使用は認める。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につける。		(d)	◎	「構造力学演習」【方法】小テスト 80 %、課題 20 %【基準】毎週の授業中の演習問題(小テスト)およびレポート課題(2回程度)の結果で評価し、60%以上を合格とする。無断欠席が無く60%以下のものには再試験を実施し、60点以上を合格とするが、評価は可とする。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	○	「鋼構造学」【方法】平常点 20 %、小テスト 50 %、期末テスト30 %【基準】・平常点(20%)と学期末試験(30%)および小テスト(50%)を総合して評価する。・学期末試験は素点(30点満点)をもって評価とし、小テストは実施したテストの総点数を50点満点に換算して評価とする。小テストは毎授業時の最後に時間をとって実施する。・小テストは教科書、ノート、電卓等の持ち込みを認める。・学期末試験では電卓のみ持ち込みを認める。・総合評価で60点以上を合格とし、再試験は実施しない。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につける。		(d)	◎	「コンクリート工学」【方法】小テスト 100 %【基準】毎回授業開始時に小テストを実施し、平均点が60%以上のものを合格とする。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につける。		(d)	◎	「鉄筋コンクリート工学」【方法】小テスト 100 %【基準】・毎週2問の小テストを行い、その点数を各3点満点とする。・レポート課題を3回提出させ、その点数を各3点満点とする。・毎回の点数を平均し、3.0-2.7を秀、2.7-2.4を優、2.4-2.1を良、2.1-1.8を可とする。・再テストは行わない。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につける。		(d)	○	「建設材料学」【方法】小テスト 100 %【基準】毎回授業開始時に小テストを実施し、平均点が60%以上のものを合格とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	○	「施設維持管理工学」【方法】平常点20%、小テスト80%【基準】・成績は鋼構造・複合構造分が50%、コンクリート構造分が50%とし、鋼構造・複合構造分では平常点を40%、小テストを60%とする。鋼構造・複合構造分の小テストは授業の終了直前(10～20分程度)に行うものとし、資料や電卓の持ち込みを認める。鋼構造・複合構造分とコンクリート構造分の評価の合計で60点以上を合格とし、再試験等は実施しない。・コンクリート構造分は、小テストのみで評価する。小テストは3段階評価とし、平均点を50点換算する。小テストは授業開始時に行う。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「水理学Ⅰ」【方法】平常点0～5%、小テスト0～5%、課題0～5%、期末テスト～100%【基準】レポートと期末テストの合計点で、60点以上を合格とする。再試験は原則として行わないが、もし行う場合には、期末テストで30点以下の者は受ける資格がなく、自動的に再履修となる。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「水理学Ⅱ」【方法】平常点0～10%、レポート0～10%、小テスト0～10%、確認テスト0～10%、期末テスト90%【基準】レポートと期末テストの合計点で、60点以上を合格とする。再試験は原則として行わないが、もし行う場合には、期末テストで30点以下の者は受ける資格がなく、自動的に再履修となる。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「水理学演習」【方法】小テスト40%、期末テスト60%【基準】出欠状況の評価基準(必須)・欠席した場合は、その日の小テストの得点を0点とする。・遅刻した場合は、その日の小テストの評価結果の50%を得点とする。・欠席または遅刻した場合は課題を課し、提出されない場合は期末テストを受ける資格がない。成績評価・小テスト、期末テストの結果で行い、合計点で6割以上を合格とする。・再試験は原則として行わないが、もし行う場合には、小テストと期末テストの合計が40%以下の者は受ける資格がない。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	○	「水工学」【方法】平常点0～5%、小テスト～10%、課題～10%、期末テスト～100%【基準】期末試験において、講義内容の習熟度を評価基準とする。・レポートは、内容の理解、自主的な学習態度、独創性を主に評価する。・再試験は原則として行わないが、もし行う場合には期末テストで30点以下の者は受ける資格なしとし、自動的に再履修となる。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「土質力学Ⅰ」【方法】期末テスト100%【基準】期末テストの60点以上を合格とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	◎	「土質力学Ⅱ」【方法】期末テスト 100 %【基準】期末テストの60点以上を合格とする。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	◎	「土質力学演習」【方法】期末テスト 100 %【基準】期末テストの60点以上を合格とする。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	○	「地質工学」【方法】小テスト 10-30 %、課題 10-30 %、期末テスト 60 %【基準】レポート(課題)と小テストをあわせて平常点(40%)とし、期末テスト(60%)と総合して評価する。再試験は原則として行わないが、もし行う場合には評価点で40点以下の者は受ける資格なしとする。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	○	「地盤工学」【方法】期末テスト100%【基準】期末テストの60%以上を合格とする。。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	○	「耐震工学」【方法】課題 30 %、期末テスト 70 %【基準】課題は期限までに提出することを義務とする。・成績評価は、期末定期試験70%、平常点(レポートなど)で総合評価。60点未満は不合格とする。・再試験は実施しない。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	○	「地震・火山防災工学」【方法】平常点 + α %、iカード 0 %、小テスト 20 %、課題 10 %、定期テスト 70 %【基準】定期試験70%、平常点(各章ごとの小テスト、レポート、講義の取り組み状況など)で総合評価。60点未満は不合格とする。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	○	「水・土砂防災工学」【方法】水分野および土砂分野について、それぞれ定期試験を行う。【基準】両分野における定期試験および平常点(レポート、講義の取り組み状況など)で総合評価。60点未満は不合格とする。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「都市計画学」【方法】期末テスト 80 %、レポート 10 %、出席 10%【基準】・都市計画の歴史と思想について概要を理解していること。・現行の都市計画制度について概要を理解していること。・土地利用計画について概要を理解していること。・地区計画について概要を理解していること。・都市デザインについて概要を理解していること。・都市防災計画について概要を理解していること。・市街地開発・再開発計画について概要を理解していること。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「交通計画学」【方法】期末テスト 80 %、レポート 10 %、出席 10%【基準】・都市と交通システムの相互作用について説明できる。・都市交通計画の立案プロセスを説明できる。・交通調査手法(パーソントリップ調査)について説明できる。・交通需要予測(四段階推定法と非集計分析)について説明できる。・事業評価(費用便益分析)について説明できる。・社会資本の維持管理計画について説明できる。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	○	「公共政策学」【方法】期末テスト80%、レポート20%で評価する。3回以上の欠席は、減点対象とする。レポートで特に優れたものは加点する。原則として再試験は行わない。もし行う場合には本試験で40点以下の者は受ける資格なしとし自動的に再履修とする。また再試験で合格する場合の評価は「可」とする。【基準】国土計画や地域計画について歴史や現状の概要を説明できる。公共空間の計画や整備、事業評価手法について説明できる。また、地理情報を用いた都市や交通政策の立案の支援について説明できる。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「上下水道工学」【方法】受講態度 5 %、課題 5 %、中間および期末試験 90 %【基準】基本的に中間および期末試験の結果で成績を評価する。ただし、講義の出席状況・受講態度や課題への取組み状況も加味する。合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。再試験は基本的には行わないが、合計点が4割に満たない場合は再履修とする。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	○	「水環境工学」【方法】期末テスト 100 %【基準】・期末試験で60点以上を合格とします。・出席は毎回採り、レポートも3回提出を予定しておりますが、平常点としてはプラスしません。欠席あるいは未提出の場合は期末試験結果より減点します。・再試験は原則として行いませんが、もし行う場合には本試験で40点以下の者は受ける資格なしとし、自動的に再履修となります。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につける。		(d)	○	「大気環境工学」【方法】受講態度 15 %、試験 75 %、課題・レポート 10 %【基準】評価は、上記の項目を割合に応じて点数化し総合点で判定する。総合点が90点以上:「秀」〃 90点未満80点以上:「優」〃 80点未満70点以上:「良」〃 70点未満60点以上:「可」〃 60点未満:「不可」
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につける。		(d)	○	「地盤環境工学」【方法】課題 20 %、期末テスト 80 %【基準】課題(プレゼンテーションを含む)(20点)、期末試験(80点)の総合成績により評価する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	○	「生態環境保全学」【方法】出席点 15 %、期末試験 75 %、課題レポート 10 %【基準】評価は、上記の項目を割合に応じて点数化し総合点で判定する。総合点が90点以上:「秀」〃 90点未満80点以上:「優」〃 80点未満70点以上:「良」〃 70点未満60点以上:「可」〃 60点未満:「不可」
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	○	「資源循環工学」【方法】小テスト 10 %、課題 10 %、期末テスト80 %【基準】小テスト(10点満点)、課題(10点満点)、期末試験(80点満点)の総合点で評価をおこなう。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	◎	「施工法」【方法】平常点 40 %、期末テスト 60 %【基準】・学期末試験(満点60点)、平常点(満点40点)により評価を行い、合計得点60点以上を合格とする。再試験は原則として行わない。・なお、平常点は、出席を重視する。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけ		(d)	○	「特別演習」【方法】平常点 100 %【基準】各研究室から、授業実施報告書と成績を教務委員に提出して、それにより教務委員が総合評価する。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「卒業研究」【方法】平常点 70 %、プレゼンテーション 30 %【基準】各指導教員のもと、研究テーマの設定、研究に関する情報の収集、研究計画の策定、研究の具体的遂行、研究成果のとりまとめと発表方法などについて一年間総合的に学習させ、研究内容、取り組む姿勢、発表をもとに総合的に評価する。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「測量学」【方法】中間テスト 50 %、期末テスト 50 %【基準】中間テスト50点、期末テスト50点の計100点満点とし、60点以上を合格とする。また、60-69点を可、70-79点を良、80-89点を優、90点以上を秀とする。59点以下については再試験を実施する場合もあるが、再試験における成績評価については、「可」あるいは「不可」とする。
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	◎	「環境工学」【方法】出席状況及び受講態度10%、レポート10%、期末試験80 %【基準】評価は基本的に期末試験で行う。ただし、出席状況、受講態度、課題も加味して評価する。総点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。再試験は基本的には行わないが、期末試験の点数が4割に満たない者は再履修とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(2)大項目2 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。		(d)	○	「社会体験学習」【方法】日報評価 20 %、レポート 40 %、事業所評価 40 %、特別加点・減点 0～5 %、事前指導・事後指導 必須条件【基準】単位の認定は、学部事前指導、申し込み手続き説明会、学科毎の事前・事後指導、実施報告会への出席を必須とし、事業所からの報告、実習日報及び受講レポートにより総合判定する。
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	◎ ◎	「基礎ゼミナール」【方法】平常点 80 %、成果発表 20 %【基準】テーマの絞込み、背景・現状の調査、持続可能な将来像に関する考察において、少人数クラスへの貢献度、会議形式の授業における討議参加状況などを総合的に評価する。
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	○ ○	「初年度自由ゼミナール」担当者が複数で別開講のため、シラバス参照のこと。
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	◎ ◎	「地域創生課題演習Ⅰ」【方法】グループピング 10 %、グループワーク 30 %、自己評価 20 %、課外学習 10 %、プレゼンテーション 30 %【基準】・グループピングは、自己分析をふまえた協調的チーム分けで評価する・自己評価・課外学習は、ポートフォリオで評価する・グループワークは、グループワーク自己評価で評価する・プレゼンテーションは、中間発表・プロポーサル発表の発表内容とディスカッションで評価する・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とグループワーク自己評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。・合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	○ ○	「地域創生課題演習Ⅱ」【方法】グループワーク 30 %、自己評価20 %、課外学習 10 %、プレゼンテーション 40 %【基準】・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とグループワーク自己評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	○ ○	「地域創生課題演習Ⅲ」【方法】チームワーク 30 %、自己評価 20%、研究記録 20 %、プレゼンテーション 30 %【基準】・自己評価・研究記録は、ポートフォリオで評価する。・チームワークは、チームワーク活動記録で評価する。・プレゼンテーションは、プロポーサル発表・研究成果発表の発表内容とディスカッションで評価する。・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とチームワーク活動記録評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。・合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	◎ ◎	「社会基盤・環境工学実験」【方法】出席状況や実験態度、レポートの出来具合を、各実験ごとに担当教員が100点満点で採点【基準】全ての実験の平均点で評定する。評定基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	◎ ◎	「社会基盤・環境プログラミング演習」【方法】小テスト 40 %、期末テスト 60 %【基準】出欠状況の評価基準(必須) ・1回でも無断欠席した場合は、「不可」の評定とする。・遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。なお、遅刻限度は14:50までとする。小テストの評価基準(40点満点) ・毎回、演習時間の始めに小テストを実施する。出題範囲は前回演習した文法までの内容とする。・入力に対して正しい出力を得られるプログラムを作成できるかを採点の基準とする。期末試験の評定基準(60点満点) ・出題に対して解答を得るためのプログラムを実際に作成し、出力された結果に対して採点を行う。・出題内容は、文法の習得を問うものから応用力を試すものまで、難易度別に数問を出題する予定である。小テストと期末試験の点数を合計し、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と評価する。再試験は原則として行わないが、もし行う場合には「小テスト+期末テスト」で40点以下の者は受ける資格無しとする(自動的に再履修となる)。
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	◎ ◎	「測量学実習Ⅰ」【方法】出席・遅刻状況 20 %、実習態度および各種提出物 80 % 【基準】◇「出欠・遅刻状況」の評価基準・1回でも「無断欠席」した場合は、『不可』となる。・遅刻かどうかの限度は出欠点呼中までとし、2回以上遅刻した場合は、『不可』となる。◇「実習態度および各種提出物」の評価基準・提出物は以下のとおりであり、いずれか1つでも提出期限までに未提出の場合は、『不可』となる。 1.トラバース図面と計算書 2.基線測量計算書 3.曲線設置計算書・提出物は、図面担当教員に『合格』と判断された期日と、図面の正確さや丁寧さを判定基準として評定を行う。・実習態度は、グループ連帯力や行動力などで評価する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	◎ ◎	「測量学実習Ⅱ」【方法】出席・遅刻状況 20 %、実習態度および各種提出物 80 % 【基準】◇「出欠状況」の評価基準◇「出欠状況」の評価基準・1回でも「無断欠席」した場合は、『不可』となる。・遅刻かどうかの限度は出欠点呼中までとし、2回以上遅刻した場合は、『不可』となる。◇「実習態度および各種提出物」の評価基準・提出物は以下のとおりであり、いずれか1つでも提出期限までに未提出の場合は、『不可』となる。1.自然観察園図面 2.曲線設置図面 3.道路の紙上設計図面一式(路線選定理由書、道路構造書、道路平面図、道路横断面図、道路縦断面図、土量計算書) 4.CADで作製したトラバース図面・各種提出物は、各図面担当教員に『合格』と判断された期日と、図面の正確さや丁寧さを判定基準として評定を行う。・実習態度は、行動力、設計過程における取り組み状況などで評価する。
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	○ ○	「公共政策学」【方法】期末テスト80%、レポート20%で評価する。3回以上の欠席は、減点対象とする。レポートで特に優れたものは加点する。原則として再試験は行わない。もし行う場合には本試験で40点以下の者は受ける資格なしとし自動的に再履修とする。また再試験で合格する場合の評価は「可」とする。【基準】国土計画や地域計画について歴史や現状の概要を説明できる。公共空間の計画や整備、事業評価手法について説明できる。また、地理情報を用いた都市や交通政策の立案の支援について説明できる。
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	◎ ◎	「設計製図」【方法】小テスト 60 %、課題 40 % 【基準】鋼構造・合成構造分野の内容で50%、鉄筋コンクリート構造の内容に50%の評価点を分配している。鋼構造・合成構造分野では授業ごとの小テストを実施し、各授業での理解程度を確認する(鋼構造・合成構造分野の60%)。小テストは各授業の最後に実施する。また、鋼構造・合成構造分野の授業終了時に課題として一連のレポート(鋼構造・合成構造分野の40%)を出題し、提出内容により授業内容の総合的な理解の程度を評価する。鋼構造・合成構造分野では上記2項目の合計により評価(全体の50%)をおこなう。鉄筋コンクリート分野では毎週の課題により、評価する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	◎ ◎	「卒業研究」【方法】平常点 70 %、プレゼンテーション 30 %【基準】各指導教員のもと、研究テーマの設定、研究に関する情報の収集、研究計画の策定、研究の具体的遂行、研究成果のとりまとめと発表方法などについて一年間総合的に学習させ、研究内容、取り組む姿勢、発表をもとに総合的に評価する。
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	○ ○	「社会体験学習」【方法】日報評価 20 %、レポート 40 %、事業所評価 40 %、特別加点・減点 0～5 %【基準】単位の認定は、学部事前指導、申し込み手続き説明会、学科毎の事前・事後指導、実施報告会への出席を必須とし、事業所からの報告、実習日報及び受講レポートにより総合判定する。
(3)大項目3 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。		(e) (h)	◎ ◎	「実践知科目」に分類されている、「地域関連科目地域関連課題演習科目」の単位取得によって評価する。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	◎	「基礎ゼミナール」【方法】平常点 80 %、成果発表 20 %【基準】テーマの絞り込み、背景・現状の調査、持続可能な将来像に関する考察において、少人数クラスへの貢献度、会議形式の授業における討議参加状況などを総合的に評価する。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	○	「初年度自由ゼミナール」担当者が複数で別開講のため、シラバス参照のこと。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	◎	「地域創生課題演習Ⅰ」【方法】グルーピング 10 %、グループワーク 30 %、自己評価 20 %、課外学習 10 %、プレゼンテーション 30%【基準】・グルーピングは、自己分析をふまえた協調的チーム分けで評価する・自己評価・課外学習は、ポートフォリオで評価する・グループワークは、グループワーク自己評価で評価する・プレゼンテーションは、中間発表・プロポーサル発表の発表内容とディスカッションで評価する・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とグループワーク自己評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。・合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	○	「地域創生課題演習Ⅱ」【方法】グループワーク 30 %、自己評価20 %、課外学習 10 %、プレゼンテーション 40 %【基準】・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とグループワーク自己評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	○	「地域創生課題演習Ⅲ」【方法】チームワーク 30 %、自己評価 20%、研究記録 20 %、プレゼンテーション 30 %【基準】・自己評価・研究記録は、ポートフォリオで評価する・チームワークは、チームワーク活動記録で評価する・プレゼンテーションは、プロポーサル発表・研究成果発表の発表内容とディスカッションで評価する・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とチームワーク活動記録評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。・合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	◎	「社会基盤・環境工学実験」【方法】出席状況や実験態度、レポートの出来具合を、各実験ごとに担当教員が100点満点で採点【基準】全ての実験の平均点で評定する。評定基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	◎	「社会基盤・環境プログラミング演習」【方法】小テスト 40 %、期末テスト 60 %【基準】出欠状況の評価基準(必須) ・1回でも無断欠席した場合は、「不可」の評定とする。・遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。なお、遅刻限度は14:50までとする。小テストの評価基準(40点満点) ・毎回、演習時間の始めに小テストを実施する。出題範囲は前回演習した文法までの内容とする。・入力に対して正しい出力を得られるプログラムを作成できるかを採点の基準とする。期末試験の評定基準(60点満点) ・出題に対して解答を得るためのプログラムを実際に作成し、出力された結果に対して採点を行う。・出題内容は、文法の習得を問うものから応用力を試すものまで、難易度別に数問を出題する予定である。小テストと期末試験の点数を合計し、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と評価する。再試験は原則として行わないが、もし行う場合には「小テスト+期末テスト」で40点以下の者は受ける資格無しとする(自動的に再履修となる)。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	◎	「科学技術英語Ⅰ」【方法】E-learning課題演習100%【基準】E-learning リーディング50%, TOEIC®テスト演習50%の60%以上を合格とする。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	◎	「科学技術英語Ⅱ」【方法】平常点 70 %、プレゼンテーション30 % 【基準】計画は各研究室の指導教官によって個別に立てられ、達成度を日常点として70点満点で評価する。プレゼンテーションは全教員参加の下で行われ、30点満点として評価する。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	◎	「測量学実習Ⅰ」【方法】出席・遅刻状況 20 %、実習態度および各種提出物 80 % 【基準】◇「出欠・遅刻状況」の評価基準・1回でも「無断欠席」した場合は、『不可』となる。・遅刻かどうかの限度は出欠点呼中までとし、2回以上遅刻した場合は、『不可』となる。◇「実習態度および各種提出物」の評価基準・提出物は以下のとおりであり、いずれか1つでも提出期限までに未提出の場合は、『不可』となる。 1.トランス図面と計算書 2.基線測量計算書 3.曲線設置計算書・提出物は、図面担当教員に『合格』と判断された期日と、図面の正確さや丁寧さを判定基準として評定を行う。・実習態度は、グループ連帯力や行動力などで評価する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	○	「測量学実習Ⅱ」【方法】出席・遅刻状況 20 %、実習態度および各種提出物 80 % 【基準】◇「出欠状況」の評価基準◇「出欠状況」の評価基準・1回でも「無断欠席」した場合は、『不可』となる。・遅刻かどうかの限度は出欠点呼中までとし、2回以上遅刻した場合は、『不可』となる。◇「実習態度および各種提出物」の評価基準・提出物は以下のとおりであり、いずれか1つでも提出期限までに未提出の場合は、『不可』となる。1.自然観察園図面 2.曲線設置図面 3.道路の紙上設計図面一式(路線選定理由書、道路構造書、道路平面図、道路横断面図、道路縦断面図、土量計算書) 4.CADで作製したトラバース図面・各種提出物は、各図面担当教員に『合格』と判断された期日と、図面の正確さや丁寧さを判定基準として評定を行う。・実習態度は、行動力、設計過程における取り組み状況などで評価する。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	◎	「構造力学演習」【方法】小テスト 80 %、課題 20 %【基準】毎週の授業中の演習問題(小テスト)およびレポート課題(2回程度)の結果で評価し、60%以上を合格とする。無断欠席が無く60%以下のものには再試験を実施し、60点以上を合格とするが、評価は可とする。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	○	「水理学演習」【方法】小テスト40%、期末テスト60%【基準】出欠状況の評価基準(必須)・欠席した場合は、その日の小テストの得点を0点とする。・遅刻した場合は、その日の小テストの評価結果の50%を得点とする。・欠席または遅刻した場合は課題を課し、提出されない場合は期末テストを受ける資格がない。成績評価・小テスト、期末テストの結果で行い、合計点で6割以上を合格とする。・再試験は原則として行わないが、もし行う場合には、小テストと期末テストの合計が40%以下の者は受ける資格がない。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	○	「土質力学演習」【方法】期末テスト 100 %【基準】期末試験の60点以上を合格とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	○	「特別演習」【方法】平常点 100 %【基準】各研究室から、授業実施報告書と成績を教務委員に提出して、それにより教務委員が総合評価する。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	◎	「卒業研究」【方法】平常点 70 %、プレゼンテーション 30 %【基準】各指導教員のもと、研究テーマの設定、研究に関する情報の収集、研究計画の策定、研究の具体的遂行、研究成果のとりまとめと発表方法などについて一年間総合的に学習させ、研究内容、取り組む姿勢、発表をもとに総合的に評価する。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	○	「社会体験学習」【方法】日報評価 20 %、レポート 40 %、事業所評価 40 %、特別加点・減点 0～5 %【基準】単位の認定は、学部事前指導、申し込み手続き説明会、学科毎の事前・事後指導、実施報告会への出席を必須とし、事業所からの報告、実習日報及び受講レポートにより総合判定する。
(4)大項目4 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。		(g)	◎	「実践知科目」に分類されている、「地域関連科目地域関連課題演習科目」の単位取得によって評価する。
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につける。		(a)	○	「入門地域創生論」【方法】日常点 40 %、レポート 60 %【基準】日常点は、出席状況や授業態度を30点満点で評価、3回の特別講演に関するレポートを各20点で60点満点とし、合計100点満点で総合評価とする。
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につけている。		(a)	○	「水工学」【方法】平常点 0～5 %、小テスト～10 %、課題～10 %、期末テスト～100 %【基準】期末試験において、講義内容の習熟度を評価基準とする。・レポートは、内容の理解、自主的な学習態度、独創性を主に評価する。・再試験は原則として行わないが、もし行う場合には期末テストで30点以下の者は受ける資格なしとし、自動的に再履修となる。
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につけている。		(a)	◎	「上下水道工学」【方法】受講態度 5 %、課題 5 %、中間および期末試験 90 %【基準】基本的に中間および期末試験の結果で成績を評価する。ただし、講義の出席状況・受講態度や課題への取り組み状況も加味する。合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。再試験は基本的には行わないが、合計点が4割に満たない場合は再履修とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につけている。		(a)	○	「水環境工学」【方法】期末テスト 100 %【基準】・期末試験で60点以上を合格とします。・出席は毎回採り、レポートも3回提出を予定しておりますが、平常点としてはプラスしません。欠席あるいは未提出の場合は期末試験結果より減点します。・再試験は原則として行いませんが、もし行う場合には本試験で40点以下の者は受ける資格なしとし、自動的に再履修となります。
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につける。		(a)	○	「大気環境工学」【方法】受講態度 15 %、試験 75 %、課題・レポート 10 %【基準】評価は、上記の項目を割合に応じて点数化し総合点で判定する。総合点が90点以上:「秀」〃90点未満80点以上:「優」〃80点未満70点以上:「良」〃70点未満60点以上:「可」〃60点未満:「不可」
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につける。		(a)	○	「地盤環境工学」【方法】課題 20 %、期末テスト 80 %【基準】課題(プレゼンテーションを含む)(20点)、期末試験(80点)の総合成績により評価する。
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につける。		(a)	○	「生態環境保全学」【方法】出席点 15 %、期末試験 75 %、課題レポート 10 %【基準】評価は、上記の項目を割合に応じて点数化し総合点で判定する。総合点が90点以上:「秀」〃90点未満80点以上:「優」〃80点未満70点以上:「良」〃70点未満60点以上:「可」〃60点未満:「不可」
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につける。		(a)	○	「資源循環工学」【方法】小テスト 10 %、課題 10 %、期末テスト80 %【基準】小テスト(10点満点)、課題(10点満点)、期末試験(80点満点)の総合点で評価をおこなう。
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につけている。		(a)	◎	「環境工学」【方法】出席状況及び受講態度10%、レポート10%、期末試験80 %【基準】評価は基本的に期末試験で行う。ただし、出席状況、受講態度、課題も加味して評価する。総点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。再試験は基本的には行わないが、期末試験の点数が4割に満たない者は再履修とする。
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につける。		(a)	◎	「技術者倫理」【方法】平常点 20 %、課題 30 %、期末テスト 50 %【基準】出席は毎回とります。授業の出席状況(出席2/3以上の者に対し受験を許可する)、課題、定期試験に基づき成績を評価します

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(5)大項目5 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につけている。		(a)	◎	「学問知科目」に分類されている、「文化科目」、「社会科目」、「自然＆科学技術科目」、「環境科目」、「地域関連科目」の単位取得によって評価する。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	◎	「基礎ゼミナール」【方法】平常点 80 %、成果発表 20 %【基準】テーマの絞り込み、背景・現状の調査、持続可能な将来像に関する考察において、少人数クラスへの貢献度、会議形式の授業における討議参加状況などを総合的に評価する。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	○	「入門地域創生論」【方法】日常点 40 %、レポート 60 %【基準】日常点は、出席状況や授業態度を30点満点で評価、3回の特別講演に関するレポートを各20点で60点満点とし、合計100点満点で総合評価とする。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	○	「施設維持管理工学」【方法】平常点20%、小テスト80%【基準】・成績は鋼構造・複合構造分が50%、コンクリート構造分が50%とし、鋼構造・複合構造分では平常点を40%、小テストを60%とする。鋼構造・複合構造分の小テストは授業の終了直前(10～20分程度)に行うものとし、資料や電卓の持ち込みを認める。鋼構造・複合構造分とコンクリート構造分の評価の合計で60点以上を合格とし、再試験等は実施しない。・コンクリート構造分は、小テストのみで評価する。小テストは3段階評価とし、平均点を50点換算する。小テストは授業開始時に行う。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	○	「水工学」【方法】平常点 0～5 %、小テスト 10 %、課題 10 %、期末テスト 100 %【基準】期末試験において、講義内容の習熟度を評価基準とする。・レポートは、内容の理解、自主的な学習態度、独創性を主に評価する。・再試験は原則として行わないが、もし行う場合には期末テストで30点以下の者は受ける資格なしとし、自動的に再履修となる。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	◎	「都市計画学」【方法】期末テスト 80 %、レポート 10 %、出席 10%【基準】・都市計画の歴史と思想について概要を理解していること。・現行の都市計画制度について概要を理解していること。・土地利用計画について概要を理解していること。・地区計画について概要を理解していること。・都市デザインについて概要を理解していること。・都市防災計画について概要を理解していること。・市街地開発・再開発計画について概要を理解していること。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	◎	「交通計画学」【方法】期末テスト 80 %、レポート 10 %、出席 10%【基準】・都市と交通システムの相互作用について説明できる。・都市交通計画の立案プロセスを説明できる。・交通調査手法(パーソントリップ調査)について説明できる。・交通需要予測(四段階推定法と非集計分析)について説明できる。・事業評価(費用便益分析)について説明できる。・社会資本の維持管理計画について説明できる。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	○	「公共政策学」【方法】期末テスト80%、レポート20%で評価する。3回以上の欠席は、減点対象とする。レポートで特に優れたものは加点する。原則として再試験は行わない。もし行う場合には本試験で40点以下の者は受ける資格なしとし自動的に再履修とする。また再試験で合格する場合の評価は「可」とする。【基準】国土計画や地域計画について歴史や現状の概要を説明できる。公共空間の計画や整備、事業評価手法について説明できる。また、地理情報を用いた都市や交通政策の立案の支援について説明できる。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	○	「生態環境保全学」【方法】出席点 15 %、期末試験 75 %、課題レポート 10 %【基準】評価は、上記の項目を割合に応じて点数化し総合点で判定する。総合点が90点以上:「秀」〃 90点未満80点以上:「優」〃 80点未満70点以上:「良」〃 70点未満60点以上:「可」〃 60点未満:「不可」
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	◎	「施工法」【方法】平常点 40 %、期末テスト 60 %【基準】・学期末試験(満点60点)、平常点(満点40点)により評価を行い、合計得点60点以上を合格とする。再試験は原則として行わない。・なお、平常点は、出席を重視する。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	◎	「環境工学」【方法】出席状況及び受講態度10%、レポート10%、期末試験80 %【基準】評価は基本的に期末試験で行う。ただし、出席状況、受講態度、課題も加味して評価する。総点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。再試験は基本的には行わないが、期末試験の点数が4割に満たない者は再履修とする。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	◎	「技術者倫理」【方法】平常点 20 %、課題 30 %、期末テスト 50 %【基準】出席は毎回とります。授業の出席状況(出席2/3以上の者に対し受験を許可する)、課題、定期試験に基づき成績を評価します

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	○	「社会体験学習」【方法】日報評価 20 %、レポート 40 %、事業所評価 40 %、特別加点・減点 0～5 %【基準】単位の認定は、学部事前指導、申し込み手続き説明会、学科毎の事前・事後指導、実施報告会への出席を必須とし、事業所からの報告、実習日報及び受講レポートにより総合判定する。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	◎	「学問知科目」に分類されている、「文化科目」、「社会科目」、「自然 & 科学技術科目」、「環境科目」、「地域関連科目」の単位取得によって評価する。
(6)大項目6 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。		(b)	◎	「実践知科目」に分類されている、「地域関連科目 地域関連課題演習科目」の単位取得によって評価する。
(7)大項目7 十分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。		(f)	◎	「科学技術英語Ⅰ」【方法】E-learning課題演習100%【基準】E-learning リーディング50%、TOEIC®テスト演習50%の60%以上を合格とする。
(7)大項目7 十分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。		(f)	◎	「科学技術英語Ⅱ」【方法】平常点 70 %、プレゼンテーション30 % 【基準】計画は各研究室の指導教官によって個別に立てられ、達成度を日常点として70点満点で評価する。プレゼンテーションは全教員参加の下で行われ、30点満点として評価する。
(7)大項目7 十分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。		(f)	◎	「技術者倫理」【方法】平常点 20 %、課題 30 %、期末テスト 50 %【基準】出席は毎回とります。授業の出席状況(出席2/3以上の者に対し受験を許可する)、課題、定期試験に基づき成績を評価します

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(7)大項目7 十分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。		(f)	○	「国際研修」【方法】ブリティッシュ・コロンビア大学の評価 70%、レポート、研修報告 30 %【基準】事前指導には全て出席する必要がある。レポートの提出、および研修報告会での発表の、いずれか一つでも欠けた場合は単位認定をしない。
(7)大項目7 十分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。		(f)	◎	「技法知科目」に分類されている、「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」の単位取得によって評価する。
(7)大項目7 十分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。		(f)	◎	「学問知科目」に分類されている、「文化科目」、「社会科目」、「地域関連科目」の単位取得によって評価する。
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	◎ ◎	「基礎ゼミナール」【方法】平常点 80 %、成果発表 20 %【基準】テーマの絞込み、背景・現状の調査、持続可能な将来像に関する考察において、少人数クラスへの貢献度、会議形式の授業における討議参加状況などを総合的に評価する。
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	○ ○	「初年度自由ゼミナール」担当者が複数で別開講のため、シラバス参照のこと。
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	◎ ◎	「物理学実験」【方法】出席点 70 %、実験ノート 20 %、レポート10 %【基準】出席状況、実験ノート、レポートを基に成績評価を行う。原則として、実験を一回でも欠席した場合およびレポート提出がない場合は単位を認定しない。尚、病気、忌引き等、止むを得ない理由により実験を欠席する場合は予め担当教員に申し出をし、後日補充実験を行う。実験ノートについては、予習・整理状況を重要視する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	◎ ◎	「化学実験」【方法】平常点(出席) 30 %、実験態度(実験前課題) 20 %、課題(実験レポート) 30 %、期末テスト 20 %【基準】実験は自ら行うことが絶対条件なので、やむを得ない理由がない限り欠席した場合は不合格とする。欠席せざるを得ない場合は、予めわかっている場合は事前に、突発的事由の場合はできるだけ早く担当教員に知らせ許可を得たうえ、補講実験の日程をうちあわせること。遅刻した場合は、一回ごとに2点減点する。実験態度は、各テーマ毎の「実験前の課題」の内容を10点満点(実験内容を把握するのに十分予習できている＝10、まずまずできている＝9～8、少し不足＝7～6、予習不足＝5以下)で評価し、合計点を10点満点に換算したものと、全体をとおしての実験中の態度を10点で評価したもの(著しく態度が良くない場合に減点する)の合計。実験レポートは、各テーマ毎に10点満点(実験結果が明示され、その結果を十分説明あるいは解釈する考察がなされている＝10、幾分考察に難がある＝9～8、結果の表現に難があり考察もやや不足＝7～6、レポートとして評価できない＝5以下)で評価し、合計点を30点満点に換算する。レポート提出が遅れた場合も平常点から、一回毎に5点減点する。テストは、各テーマの内容に関する問題を各1問ずつ出題し、20点満点で採点する。以上4項目の合計点により、岩手大学の評価基準にしたがって、秀(2007年入学生から)・優・良・可・不可で評価する。
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	◎ ◎	「地域創生課題演習Ⅰ」【方法】グルーピング 10 %、グループワーク 30 %、自己評価 20 %、課外学習 10 %、プレゼンテーション 30%【基準】・グルーピングは、自己分析をふまえた協調的チーム分けで評価する・自己評価・課外学習は、ポートフォリオで評価する・グループワークは、グループワーク自己評価で評価する・プレゼンテーションは、中間発表・プロポーサル発表の発表内容とディスカッションで評価する・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とグループワーク自己評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。・合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	○ ○	「地域創生課題演習Ⅱ」【方法】グループワーク 30 %、自己評価20 %、課外学習 10 %、プレゼンテーション 40 %【基準】・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とグループワーク自己評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	◎ ◎	「地域創生課題演習Ⅲ」【方法】チームワーク 30 %、自己評価 20%、研究記録 20 %、プレゼンテーション 30 %【基準】・自己評価・研究記録は、ポートフォリオで評価する。・チームワークは、チームワーク活動記録で評価する。・プレゼンテーションは、プロポーサル発表・研究成果発表の発表内容とディスカッションで評価する。・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とチームワーク活動記録評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。・合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	◎ ◎	「社会基盤・環境工学実験」【方法】出席状況や実験態度、レポートの出来具合を、各実験ごとに担当教員が100点満点で採点【基準】全ての実験の平均点で評定する。評定基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可とする。
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	◎ ◎	「科学技術英語Ⅱ」【方法】平常点 70 %、プレゼンテーション30 % 【基準】計画は各研究室の指導教官によって個別に立てられ、達成度を日常点として70点満点で評価する。プレゼンテーションは全教員参加の下で行われ、30点満点として評価する。
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	◎ ◎	「卒業研究」【方法】平常点 70 %、プレゼンテーション 30 %【基準】各指導教員のもと、研究テーマの設定、研究に関する情報の収集、研究計画の策定、研究の具体的遂行、研究成果のとりまとめと発表方法などについて一年間総合的に学習させ、研究内容、取り組む姿勢、発表をもとに総合的に評価する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	○ ○	「社会体験学習」【方法】日報評価 20 %、レポート 40 %、事業所評価 40 %、特別加点・減点 0～5 %【基準】単位の認定は、学部事前指導、申し込み手続き説明会、学科毎の事前・事後指導、実施報告会への出席を必須とし、事業所からの報告、実習日報及び受講レポートにより総合判定する。
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	◎ ◎	「技法知科目」に分類されている、「情報科目」の単位取得によって評価する。
(8)大項目8 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。		(f) (h)	◎ ◎	「実践知科目」に分類されている、「地域関連科目地域関連課題演習科目」の単位取得によって評価する。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「基礎ゼミナール」【方法】平常点 80 %、成果発表 20 %【基準】テーマの絞込み、背景・現状の調査、持続可能な将来像に関する考察において、少人数クラスへの貢献度、会議形式の授業における討議参加状況などを総合的に評価する。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「初年度自由ゼミナール」担当者が複数で別開講のため、シラバス参照のこと。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「物理学実験」【方法】出席点 70 %、実験ノート 20 %、レポート10 %【基準】出席状況、実験ノート、レポートを基に成績評価を行う。原則として、実験を一回でも欠席した場合およびレポート提出がない場合は単位を認定しない。尚、病気、忌引き等、止むを得ない理由により実験を欠席する場合は予め担当教員に申し出をし、後日補充実験を行う。実験ノートについては、予習・整理状況を重要視する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「化学実験」【方法】平常点(出席) 30 %、実験態度(実験前課題) 20 %、課題(実験レポート) 30 %、期末テスト 20 %【基準】実験は自ら行うことが絶対条件なので、やむを得ない理由がない限り欠席した場合は不合格とする。欠席せざるを得ない場合は、予めわかっている場合は事前に、突発的事由の場合はできるだけ早く担当教員に知らせ許可を得たうえ、補講実験の日程をうちあわせること。遅刻した場合は、一回ごとに2点減点する。実験態度は、各テーマ毎の「実験前の課題」の内容を10点満点(実験内容を把握するのに十分予習できている＝10、まずまずできている＝9～8、少し不足＝7～6、予習不足＝5以下)で評価し、合計点を10点満点に換算したものと、全体をとおしての実験中の態度を10点で評価したもの(著しく態度が良くない場合に減点する)の合計。実験レポートは、各テーマ毎に10点満点(実験結果が明示され、その結果を十分説明あるいは解釈する考察がなされている＝10、幾分考察に難がある＝9～8、結果の表現に難があり考察もやや不足＝7～6、レポートとして評価できない＝5以下)で評価し、合計点を30点満点に換算する。レポート提出が遅れた場合も平常点から、一回毎に5点減点する。テストは、各テーマの内容に関する問題を各1問ずつ出題し、20点満点で採点する。以上4項目の合計点により、岩手大学の評価基準にしたがって、秀(2007年入学生から)・優・良・可・不可で評価する。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	○	「入門地域創生論」【方法】日常点 40 %、レポート 60 %【基準】日常点は、出席状況や授業態度を30点満点で評価、3回の特別講演に関するレポートを各20点で60点満点とし、合計100点満点で総合評価とする。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「地域創生課題演習Ⅰ」【方法】グルーピング 10 %、グループワーク 30 %、自己評価 20 %、課外学習 10 %、プレゼンテーション 30 %【基準】・グルーピングは、自己分析をふまえた協調的チーム分けで評価する・自己評価・課外学習は、ポートフォリオで評価する・グループワークは、グループワーク自己評価で評価する・プレゼンテーションは、中間発表・プロポーサル発表の発表内容とディスカッションで評価する・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とグループワーク自己評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。・合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「地域創生課題演習Ⅱ」【方法】グループワーク 30 %、自己評価20 %、課外学習 10 %、プレゼンテーション 40 %【基準】・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とグループワーク自己評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「地域創生課題演習Ⅲ」【方法】チームワーク 30 %、自己評価 20%、研究記録 20 %、プレゼンテーション 30 %【基準】・自己評価・研究記録は、ポートフォリオで評価する。・チームワークは、チームワーク活動記録で評価する。・プレゼンテーションは、プロポーサル発表・研究成果発表の発表内容とディスカッションで評価する。・正当な理由がなく欠席した場合は、「不可」の評定とする。また、遅刻は3回まで認め、4回目以上で「不可」の評定とする。・プレゼンテーション評価とチームワーク活動記録評価、ポートフォリオ評価の合計点で判定する。・合計点の6割以上を合格とし、9割以上を「秀」、8割以上9割未満を「優」、7割以上8割未満を「良」、6割以上7割未満を「可」とする。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「社会基盤・環境工学実験」【方法】出席状況や実験態度、レポートの出来具合を、各実験ごとに担当教員が100点満点で採点【基準】全ての実験の平均点で評定する。評定基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可とする。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「測量学実習Ⅰ」【方法】出席・遅刻状況 20 %、実習態度および各種提出物 80 % 【基準】◇「出欠・遅刻状況」の評価基準・1回でも「無断欠席」した場合は、『不可』となる。・遅刻かどうかの限度は出欠点呼中までとし、2回以上遅刻した場合は、『不可』となる。◇「実習態度および各種提出物」の評価基準・提出物は以下のとおりであり、いずれか1つでも提出期限までに未提出の場合は、『不可』となる。1.トラバース図面と計算書 2.基線測量計算書 3.曲線設置計算書・提出物は、図面担当教員に『合格』と判断された期日と、図面の正確さや丁寧さを判定基準として評定を行う。・実習態度は、グループ連帯力や行動力などで評価する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「測量学実習Ⅱ」【方法】出席・遅刻状況 20 %、実習態度および各種提出物 80 % 【基準】◇「出欠状況」の評価基準◇「出欠状況」の評価基準・1回でも「無断欠席」した場合は、『不可』となる。・遅刻かどうかの限度は出欠点呼中までとし、2回以上遅刻した場合は、『不可』となる。◇「実習態度および各種提出物」の評価基準・提出物は以下のとおりであり、いずれか1つでも提出期限までに未提出の場合は、『不可』となる。1.自然観察園図面 2.曲線設置図面 3.道路の紙上設計図面一式(路線選定理由書、道路構造書、道路平面図、道路横断面図、道路縦断面図、土量計算書) 4.CADで作製したトラバース図面・各種提出物は、各図面担当教員に『合格』と判断された期日と、図面の正確さや丁寧さを判定基準として評価を行う。・実習態度は、行動力、設計過程における取り組み状況などで評価する。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	○	「社会体験学習」【方法】日報評価 20 %、レポート 40 %、事業所評価 40 %、特別加点・減点 0～5 % 【基準】単位の認定は、学部事前指導、申し込み手続き説明会、学科毎の事前・事後指導、実施報告会への出席を必須とし、事業所からの報告、実習日報及び受講レポートにより総合判定する。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「技法知科目」に分類されている、「健康・スポーツ科目」の単位取得によって評価する。
(9)大項目9 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。		(i)	◎	「実践知科目」に分類されている、「地域関連科目地域関連課題演習科目」の単位取得によって評価する。